

中学校適正配置（学校再編）の意見交換会の概要

期 日	平成 25 年 2 月 20 日（水）	時 間	19：00 から 21：17 まで
場 所	市木中学校 体育館		
出席者（学校関係者を含む。）	47 名		
事 務 局	教育委員（教育長を含む。）5 名 学校政策課長、生涯学習課長、学校政策課長補佐、学校政策課指導主事、施設係長、教育総務係長		
No.	質 問	教育委員会説明・回答	
1	今の段階で統合は決まっているのか。話を聞いていると決まっているような内容であるが。	市内に 6 校中学校があるが、統廃合は進めていく。6 校ではなくなる。	
2	市木中学校は残るのか。	決定はしていない。	
3	いつの段階で決定するのか。	学校再編の実施計画を策定した段階で学校数、場所を決定する。	
4	事前に子どもたちにアンケートを実施しているのか。	実施していない。各地区の意見交換会においても質問がでたが、教育委員会の会議においても協議し、現段階では必要ないのではないかということでアンケートはとらない。	
5	どうしてアンケートが必要でないという経緯になったのか。	全国の例を参考にしながら、アンケートの対応をどうするのかということ、教育委員会の会議の中で議題として協議した。	
6	アンケートをとったところで問題があったのか。	全国ではアンケートをとっているところもあるが、とっていないところが多い。	
7	アンケートをとっているところが少ないのでアンケートを実施しないのか。	学校の規模をどうするのかということは子どもたちに決めさせる問題ではないので、大人で決めていく。	
8	子どもたちが意見を言う機会はないということか。	大きな柱建では大人が環境を作ってあげることが必要である。子どもは経験が浅いのでいろんな経験をすることなく、学校をどうすればいいと言われてもむずかしいのではないかと考える。	
9	大阪の小学 5 年生が自分の身を持って、統廃合しなでほしいという子どもがいる。アンケートをとって子どもたちの意見を聞くべきだと思うが。	学校再編を実現していく中での基本的なことについては、大人が考えて準備することで、現在アンケートを実施することにはなっていない。	

10	陳情書の回答を聞かせてほしい。	市木の方々の総意で陳情書をお受けしたが、この陳情書の回答は結論がでていない。市木地区の意思はしっかりと重く受け止めて今後対応しなければならない。
11	2月11日の宮崎日日新聞に掲載してあった、大阪の大東市の児童が自殺した記事を読んで、どう感じたか。	本当に痛ましい事故が起こっている。我々としてもショックを受けている。もし串間市で同じようなことが起きれば大変なことである。そういうことがあってはならないと思っている。正しく判断できる子どもを育てていかなくてならない。
12	統廃合するときのクラスはどのくらいか。また小人数の良さをどう考えているのか。アンケートをとってほしい。	人数については40人が基本となっている。大きな集団を小さく分けて指導していくことは先生が配置されてできる。大卒は大人が決めて、一体となって子どもたちに話すことは大事である。
13	何年のスパンをもって計画をたてているのか。	教育委員会であるので子どもたちを最優先に考えている。市木では何年後かに学年ひとりになり充実した学校生活を送れるのか心配である。そうなったときには何らかの方法を考えなければならない。
14	少子化、高齢化は日本全国どこでも問題である。それに向けた代替案を作らなければ始まらない。この地域で生きていくのか、どうしていくか、そこを議論していくことだと思う。学校がなくなれば、その時点で子どもをここへ連れてこようとか、ここで育った人が帰ってこようと思わない地域になるので、学校は必要であるし、それを考えていく会にしたらどうか。	市全体を挙げて考えていかなければならない問題である。子どもが増えない現実がある。いずれにしても教育委員会だけではなく、全庁を挙げて取り組む課題である。
15	子どもに分かる表現で、メリット、デメリットを示してアンケートをしてほしい。子どもにも考える機会を与えてほしい。	教育委員会の会議の中ではアンケートはとらないという協議をしている。ただ他の地区でも是非していただきたいというご意見をいただいている。現在ではしない方向であるが、教育委員会の会議において今一度協議をさせていただきたい。
16	日南高校は新しいクラスを設けて魅力ある高校づくりをしている。福島高	串間市から県立高校がなくなれば、大変なことである。串間市では小中高一貫教育を

	校はどうか。小学校、中学校の小さいところも大事だが、高校、魅力的なまちづくりを考えて、是非ほかのまちからも行きたいと思われるような高校を作らなければ、まちづくりをしなければ人は減っていく。人が住まなくなってしまう前に、学校づくり、人間づくり、まちづくりをととても大事しなければならない大きな転換点にきている。勝負どころではないかと考える。	取り組んで5年目になるが、児童生徒数が減っている中で、福島高校は普通科だけの高校であるが、校長は魅力を高めることで一生懸命取り組んでおられる。魅力ある学校でないときてくれないという危機感を持って対応されている。串間市内から進学する率は徐々に上がってきている。そういう意味では小中高一貫教育の取り組みにより、地元の中学生は地元の高校に行くという意識が芽生えてきている。ぜひ市木からも福島高校に行きたいという子どもが行ってくれるような高校になってもらいたいと考えている。串間市としても福島高校をバックアップしていく。
17	市木の中学生は成績が良く、日南高校に行っても成績がいい。デメリットを言われるが不自由をしていない、小学校も中学校も地域と一緒に生活しないとできない地域である。小学校と中学校が一緒に勉強できる一貫校を作っていただけないか。	小中一貫校は、市木小・中ではメリットが薄い。同学年を増やしたいということにつながらない。二つ以上の小学校が統合して中学校と一貫校にするなら、小学生の数が増えるので効果がある。施設のことも含めて教育委員会の会議の中で議論して結論を出していかなければと考えている。
18	統合する場合校舎は新しく建てないのか。今の校舎を使うのか。	議論の中では既存の中学校を使用して統廃合していくという考え方があった。新しい場所に作っていくという発想も協議したこともある。ただまだ決定していない。
19	市木に魅力があってここで暮らしているが、子どもたちも地域に愛着を持つことは大事で、そのことは中学校でも同じである。	串間市では、児童生徒はかなり遠いところからきている実態がある。それぞれの地域の中で学校に通う子どもたちが苦労して通っていた歴史が存在する。そういうことを踏まえて、子どもの数が減ってきている、学校の機能が十分果たしているのかということに心配している。いくらかの負担は子どもや保護者に生じるが、できるだけ負担を少なくした中で最大限の教育を受けさせたい。
20	これまでの説明会で、統廃合をしたいという人がいるのか。	把握はしていない。
21	今後の見通しについて、3月の基本方	串間市中学校再編基本方針（案）について

	針決定は何の決定なのか。学校数はいつ決まるのか。	である。平成25年9月の実施計画の策定で決定する。
--	--------------------------	---------------------------

No.	意見等	
1	市木ではどなたでも来ていただく準備はできている。他の地域から市木中学校にきていただいても十分受け止める準備はできている。ぜひ市木に来てほしい。	
2	中学校がなくなると市木から学校がなくなるのと同じである。小学校は残り中学校はなくしてもいいという考え方はしないしてほしい。小中一貫校にしてでも残してほしい。	
3	やめてほしいという声が反映されないのが疑問である。	
4	市木では統合は反対である。住民が100%そうである。	